区分・種別	重要文化財(建造物)		
名　　称	萬翠荘(ばんすいそう)　(旧久松家別邸(きゅうひさまつけべってい))　２棟　本館(ほんかん)　管理人舎(かんりにんしゃ)		
所　在　地	松山市一番町		
所　有　者	愛媛県	管 理　団 体	
指定年月日	平成23年11月29日		
解　　説	萬翠荘は、大正11年(1922年)に旧松山藩主の久松家が建設した洋風住宅である。敷地は松山城南麓に所在し、中腹に本館、南面する平地の正門に隣接して管理人舎がある。 本館は、鉄筋コンクリート造の地上２階建、地下１階建である。左右対称を原則とした立面構成やマンサード屋根、連続アーチのバルコニーなど、フランス・ルネサンス様式を基調とする。 設計は、建築家の木子七郎(きごしちろう)が行い、木彫家の相原雲楽(あいはらうんらく)や洋画家の八木彩霞(やぎさいか)、装飾硝子作家の木内真太郎(きうちしんたろう)など、当時、各分野で活躍していた芸術家たちの参加を得て建設され、内部の装飾の意匠や各部屋の使用方法も含めて、高い統一性をもつ西洋式となっている。 萬翠荘は、本格的なフランス・ルネサンス様式による近代の住宅建築で、日本人建築家による意匠的に優秀な建築作品である。また、県内で最初に導入された鉄筋コンクリート構造の建物であり、わが国における洋風住宅の受容と広がりを示すものとして重要である。		